

競技規則改正 新旧対比表(案)

2022年 3月 9日 競技部作成

第1部 総則

条	項	2020～2021年版	2022～2023年版
108	1	種別(クラス)を、次のように分ける。 ・キャデット女子 ・キャデット男子 ・ジュニア女子 ・ジュニア男子 ・一般女子 ・一般男子 ・マスター女子 ・マスター男子	種別(クラス)を、次のように分ける。 ・ <u>U18</u> 女子 ・ <u>U18</u> 男子 ・ <u>U21</u> 女子 ・ <u>U21</u> 男子 ・一般女子 ・一般男子 ・ <u>50+</u> 女子 ・ <u>50+</u> 男子
	2	ターゲットおよびフィールドアーチェリーの競技では、それぞれキャデット女子、キャデット男子、ジュニア女子、ジュニア男子、一般女子、一般男子、マスター女子およびマスター男子のための独立した競技会を開催することができる。	ターゲットおよびフィールドアーチェリーの競技では、それぞれ <u>U18</u> 女子、 <u>U18</u> 男子、 <u>U21</u> 女子、 <u>U21</u> 男子、一般女子、一般男子、 <u>50+</u> 女子および <u>50+</u> 男子のための独立した競技会を開催することができる。
	3	キャデット部門に参加できるのは、競技者が17歳の誕生日を迎える年の12月31日までに開催される競技会までとする。	<u>U18の種別</u> に参加できるのは、競技者が17歳の誕生日を迎える年の12月31日までに開催される競技会までとする。
	4	キャデットの競技者は、自分の判断に従って、ジュニアの部および一般の部で競技に参加することができる。	<u>U18</u> の競技者は、自分の判断に従って、 <u>U21の種別</u> および一般の <u>種別</u> で競技に参加することができる。
	5	ジュニア部門に参加できるのは、競技者が20歳の誕生日を迎える年の12月31日までに開催される競技会までとする。	<u>U21の種別</u> に参加できるのは、競技者が20歳の誕生日を迎える年の12月31日までに開催される競技会までとする。
	6	ジュニアの競技者は、自分の判断に従って、一般の部で競技に参加することができる。	<u>U21</u> の競技者は、自分の判断に従って、一般の部で競技に参加することができる。
	7	マスター部門に参加できるのは、競技者が50歳の誕生日を迎える年の1月1日以降に開催される競技会からとする。	<u>50+の種別</u> に参加できるのは、競技者が50歳の誕生日を迎える年の1月1日以降に開催される競技会からとする。
	8	キャデット、ジュニア、一般およびマスターの種別を分けることなく、女子および男子の種別のみとし、あるいはさらに細分化した年齢区分を採用することができる。また、国内競技会においては、小学生・中学生・高校生の部門を設けるなど、開催要項等で制限することができる。	<u>U18</u> 、 <u>U21</u> 、一般および <u>50+</u> の種別を分けることなく、女子および男子の種別のみとし、あるいはさらに細分化した年齢区分を採用することができる。また、国内競技会においては、小学生・中学生・高校生の種別を設けるなど、開催要項等で制限することができる。
109	7	3Dアーチェリー(第3部参照) ・コンパウンド部門 ・ベアボウ部門 ・ロングボウ部門 ・インスティンクティブボウ部門	3Dアーチェリー(第3部参照) ・コンパウンド部門 ・ベアボウ部門 ・ロングボウ部門 ・ <u>トラディショナル</u> 部門

条	項	2020～2021年版				2022～2023年版			
110		下記のとおり、種別および部門の組み合わせを「カテゴリー」と呼ぶ。				下記のとおり、種別および部門の組み合わせを「カテゴリー」と呼ぶ。			
		リカーブ				リカーブ			
		リカーブ 女子	RW	リカーブ 男子	RM	リカーブ 女子	RW	リカーブ 男子	RM
		リカーブ ジュニア 女子	RJW	リカーブ ジュニア 男子	RJM	リカーブ <u>U21</u> 女子	<u>RU21W</u>	リカーブ <u>U21</u> 男子	<u>RU21M</u>
		リカーブ マスター 女子	RMW	リカーブ マスター 男子	RMM	リカーブ <u>50+</u> 女子	<u>R50W</u>	リカーブ <u>50+</u> 男子	<u>R50M</u>
		リカーブ キャデット 女子	RCW	リカーブ キャデット 男子	RCM	リカーブ <u>U18</u> 女子	<u>RU18W</u>	リカーブ <u>U18</u> 男子	<u>RU18M</u>
		コンパウンド				コンパウンド			
		コンパウンド 女子	CW	コンパウンド 男子	CM	コンパウンド 女子	CW	コンパウンド 男子	CM
		コンパウンド ジュニア 女子	CJW	コンパウンド ジュニア 男子	CJM	コンパウンド <u>U21</u> 女子	<u>CU21W</u>	コンパウンド <u>U21</u> 男子	<u>CU21M</u>
		コンパウンド マスター 女子	CMW	コンパウンド マスター 男子	CMM	コンパウンド <u>50+</u> 女子	<u>C50W</u>	コンパウンド <u>50+</u> 男子	<u>C50M</u>
		コンパウンド キャデット 女子	CCW	コンパウンド キャデット 男子	CCM	コンパウンド <u>U18</u> 女子	<u>CU18W</u>	コンパウンド <u>U18</u> 男子	<u>CU18M</u>
		パラ リカーブ				パラ リカーブ			
		リカーブ 女子 オープン	RWO	リカーブ 男子 オープン	RMO	リカーブ 女子 オープン	RWO	リカーブ 男子 オープン	RMO
		パラ コンパウンド				パラ コンパウンド			
		コンパウンド 女子 オープン	CWO	コンパウンド 男子 オープン	CMO	コンパウンド 女子 オープン	CWO	コンパウンド 男子 オープン	CMO
		W1 オープン				W1 Open			
		女子 W1 オープン (RC/CP)	WW1	男子 W1 オープン (RC/CP)	MW1	女子 W1 オープン (RC/CP)	WW1	男子 W1 オープン (RC/CP)	MW1
		視覚障害				視覚障害			
		視覚障害 1	VI1	視覚障害 2/3	VI2/3	視覚障害 1	VI1	視覚障害 2/3	VI2/3
		ベアボウ				ベアボウ			
		ベアボウ 女子	BW	ベアボウ 男子	BM	ベアボウ 女子	BW	ベアボウ 男子	BM
		ベアボウ ジュニア 女子	BJW	ベアボウ ジュニア 男子	BJM	ベアボウ <u>U21</u> 女子	<u>BU21W</u>	ベアボウ <u>U21</u> 男子	<u>BU21M</u>
		ベアボウ キャデット 女子	BCW	ベアボウ キャデット 男子	BCM	ベアボウ <u>U18</u> 女子	<u>BU18W</u>	ベアボウ <u>U18</u> 男子	<u>BU18M</u>
		ロングボウ および インスティンクティブ				ロングボウ および <u>トラディショナル</u>			
		ロングボウ 女子	LW	ロングボウ 男子	LM	ロングボウ 女子	LW	ロングボウ 男子	LM
		インスティンクティブ ウ女子	IW	インスティンクティブ ウ男子	IM	<u>トラディショナル</u> 女子	<u>TW</u>	<u>トラディショナル</u> 男子	<u>TM</u>

条	項	2020～2021年版	2022～2023年版																																																
111	1	(6) リカーブでは、この競技は「オリンピックラウンド」といい、距離70m(キャデットおよびマスターは60m)で122cm標的面を使用して行い、コンパウンドでは、「コンパウンドマッチラウンド」といい、距離50mで80cm6リング標的面を使用して行う。ベアボウでは、「ベアボウマッチラウンド」といい、距離50mで122cm標的面を使用して行う。	リカーブでは、この競技は「オリンピックラウンド」といい、距離70m(<u>U18</u> および <u>50+</u>)は60m)で122cm標的面を使用して行い、コンパウンドでは、「コンパウンドマッチラウンド」といい、距離50mで80cm6リング標的面を使用して行う。ベアボウでは、「ベアボウマッチラウンド」といい、距離50mで122cm標的面を使用して行う。																																																
		(7) チームは、予選ラウンドの上位3名の競技者(ミックス団体戦は2名)で構成する。ただし、チームの監督は競技開始1時間前までにDOSまたは審判長に書面で通知することにより、予選ラウンドに出場した他の競技者と交代させることができる。これに違反したチームは失格となる。メダルは、予選ラウンドではなく、団体戦に出場した競技者のみに授与する。	チームは、予選ラウンドの上位3名の競技者(ミックス団体戦は2名)で構成する。ただし、チームの監督は <u>そのラウンドの練習15分前までに記録担当の競技役員</u> または審判長に書面で通知することにより、予選ラウンドに出場した他の競技者と交代させることができる。これに違反したチームは失格となる。メダルは、予選ラウンドではなく、団体戦に出場した競技者のみに授与する。																																																
	3	60mラウンド(リカーブ:キャデットおよびマスター)は、距離60mで122cm標的面を使用し、72射する。	60mラウンド(リカーブ: <u>U18</u> および <u>50+</u>)は、距離60mで122cm標的面を使用し、72射する。																																																
112	3	25mラウンドは、60cm標的面または60cm三つ目標的面を使用し、60射する。	【第408条1項に移動】																																																
	4 ↓ 3	視覚障害者ラウンドは、第2部第19章パラアーチェリー参照。	視覚障害者ラウンドは、第2部第19章パラアーチェリー参照。																																																
	4		【新規追加】 <u>インドアラウンドの競技は屋外でも実施することができる。</u>																																																
113	2	(5) プールAの勝者はプールBの勝者と、プールCの勝者はプールDの勝者と対戦し、準決勝戦への進出者を決定する。 <table border="1" data-bbox="363 1317 922 1532"> <thead> <tr> <th>プールA</th> <th>プールB</th> <th>プールC</th> <th>プールD</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>16</td> <td>17</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>19</td> <td>21</td> <td>20</td> <td>22</td> </tr> </tbody> </table>	プールA	プールB	プールC	プールD	3	5	4	6	10	8	9	7	11	13	12	14	18	16	17	15	19	21	20	22	プールAの勝者はプールDの勝者と、プールCの勝者はプールBの勝者と対戦し、準決勝戦への進出者を決定する。 <table border="1" data-bbox="943 1317 1501 1532"> <thead> <tr> <th>プールA</th> <th>プールB</th> <th>プールC</th> <th>プールD</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>16</td> <td>17</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>19</td> <td>21</td> <td>20</td> <td>22</td> </tr> </tbody> </table>	プールA	プールB	プールC	プールD	3	5	4	6	10	8	9	7	11	13	12	14	18	16	17	15	19	21	20	22
		プールA	プールB	プールC	プールD																																														
3	5	4	6																																																
10	8	9	7																																																
11	13	12	14																																																
18	16	17	15																																																
19	21	20	22																																																
プールA	プールB	プールC	プールD																																																
3	5	4	6																																																
10	8	9	7																																																
11	13	12	14																																																
18	16	17	15																																																
19	21	20	22																																																
(6) イリミネーションラウンドの対戦は、6標的で行う。マークの標的を使用し、競技者は同時に行射する。	イリミネーションラウンドの対戦は、6標的で行う。マークの標的を使用し、競技者は同時に行射する。 <u>a イリミネーションで2つの対戦(4名の競技者)が一つのグループで同じ標的を行射する場合、</u> <u>・対戦は常にプールのアルファベット順に行射する。例えば、プールBとプールDが同じグループの場合、プールBの対戦が常に先に行射する。</u> <u>・U21と一般の競技者が同じグループにいる場合、一般の競技者が先に行射する。</u>																																																		

条	項	2020～2021年版	2022～2023年版																																																
113 つづき	2 つづき	(8) <ul style="list-style-type: none"> ● 準決勝戦では、プールABの勝者(競技者AB)が2位の競技者と、プールCDの勝者(競技者CD)が1位の競技者と対戦する。対戦の勝者はゴールドメダルマッチに、敗者はブロンズメダルマッチに進む。準決勝戦において、4名の競技者が一つのグループで行射する場合、競技者ABと2位の競技者の対戦がすべての標的で先に行射し、もう1組の対戦が2組目として行射する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 準決勝戦では、<u>プールAD</u>の勝者(<u>競技者AD</u>)が2位の競技者と、<u>プールBC</u>の勝者(<u>競技者BC</u>)が1位の競技者と対戦する。対戦の勝者はゴールドメダルマッチに、敗者はブロンズメダルマッチに進む。準決勝戦において、4名の競技者が一つのグループで行射する場合、<u>競技者AD</u>と2位の競技者の対戦がすべての標的で先に行射し、もう1組の対戦が2組目として行射する。 																																																
		(10) 標的は、地形の変化を最大限に利用して配置する。第1標的で、高順位チームが先攻、後攻を決定する。その後の標的では、合計得点の低いチームが先に行射する。同点の場合、開始時に先攻したチームが先に行射する。	標的は、地形の変化を最大限に利用して配置する。第1標的で、高順位チームが先攻、後攻を決定する。その後の標的では、合計得点の低いチームが先に行射する。同点の場合、開始時に先攻したチームが先に行射する。 <u>それぞれのチームは、スコアカードに記載された左/右の位置に立つ。</u>																																																
		(11) 団体戦ファイナルラウンドは、各種別の勝ち上がった4チーム(各部門から1名の競技者)が出場する。 <ul style="list-style-type: none"> ● 第1標的で、高順位チームが先攻、後攻を決定する。その後の標的では、合計得点の低いチームが先に行射する。同点の場合、開始時に先攻したチームが先に行射する。 	団体戦ファイナルラウンドは、各種別の勝ち上がった4チーム(各部門から1名の競技者)が出場する。 <ul style="list-style-type: none"> ● 第1標的で、高順位チームが先攻、後攻を決定する。その後の標的では、合計得点の低いチームが先に行射する。同点の場合、開始時に先攻したチームが先に行射する。 ● <u>それぞれのチームは、スコアカードに記載された左/右の位置に立つ。</u> 																																																
114	2	(4) プールAの勝者はプールBの勝者と、プールCの勝者はプールDの勝者と対戦し、準決勝戦への進出者を決定する。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>プールA</th> <th>プールB</th> <th>プールC</th> <th>プールD</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>16</td> <td>17</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>19</td> <td>21</td> <td>20</td> <td>22</td> </tr> </tbody> </table>	プールA	プールB	プールC	プールD	3	5	4	6	10	8	9	7	11	13	12	14	18	16	17	15	19	21	20	22	プールAの勝者はプールDの勝者と、プールCの勝者はプールBの勝者と対戦し、準決勝戦への進出者を決定する。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>プールA</th> <th>プールB</th> <th>プールC</th> <th>プールD</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>16</td> <td>17</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>19</td> <td>21</td> <td>20</td> <td>22</td> </tr> </tbody> </table>	プールA	プールB	プールC	プールD	3	5	4	6	10	8	9	7	11	13	12	14	18	16	17	15	19	21	20	22
		プールA	プールB	プールC	プールD																																														
3	5	4	6																																																
10	8	9	7																																																
11	13	12	14																																																
18	16	17	15																																																
19	21	20	22																																																
プールA	プールB	プールC	プールD																																																
3	5	4	6																																																
10	8	9	7																																																
11	13	12	14																																																
18	16	17	15																																																
19	21	20	22																																																
(7) <ul style="list-style-type: none"> ● 準決勝戦では、プールABの勝者(競技者AB)が2位の競技者と、プールCDの勝者(競技者CD)が1位の競技者と対戦する。対戦の勝者はゴールドメダルマッチに、敗者はブロンズメダルマッチに進む。準決勝戦において、4名の競技者が一つのグループで行射する場合、競技者ABと2位の競技者の対戦がすべての標的で先に行射し、もう1組の対戦が2組目として行射する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 準決勝戦では、<u>プールAD</u>の勝者(<u>競技者AD</u>)が2位の競技者と、<u>プールBC</u>の勝者(<u>競技者BC</u>)が1位の競技者と対戦する。対戦の勝者はゴールドメダルマッチに、敗者はブロンズメダルマッチに進む。準決勝戦において、4名の競技者が一つのグループで行射する場合、<u>競技者AD</u>と2位の競技者の対戦がすべての標的で先に行射し、もう1組の対戦が2組目として行射する。 																																																		

条	項	2020～2021年版	2022～2023年版
114 つづき	2 つづき	(8) 団体戦イリミネーションラウンド(準々決勝戦)は、各種別の2回の予選ラウンドを通過した上位8チームが8標的を行射する。チームは、コンパウンド、ロングボウ、およびインスティンクティブボウまたはベアボウからの各1名の競技者で構成する。チーム順位は、各カテゴリーの第2予選ラウンド後の最高得点競技者による(インスティンクティブボウおよびベアボウの両部門で競技している場合、高得点部門が対象となる)。	団体戦イリミネーションラウンド(準々決勝戦)は、各種別の2回の予選ラウンドを通過した上位8チームが8標的を行射する。チームは、コンパウンド、ロングボウ、および トラディショナル またはベアボウからの各1名の競技者で構成する。チーム順位は、各カテゴリーの第2予選ラウンド後の最高得点競技者による(トラディショナル およびベアボウの両部門で競技している場合、高得点部門が対象となる)。
	3	(1) ファイナルラウンドでは、各カテゴリーの競技者は次の順序で開始する。 ・ロングボウ女子 ・ロングボウ男子 ・インスティンクティブボウ女子 ・インスティンクティブボウ男子 ・ベアボウ女子 ・ベアボウ男子 ・コンパウンド女子 ・コンパウンド男子 またはすべての部門の女子が先に行射し、その後に男子が行射する。	ファイナルラウンドでは、各カテゴリーの競技者は次の順序で開始する。 ・ロングボウ女子 ・ロングボウ男子 ・ トラディショナル 女子 ・ トラディショナル 男子 ・ベアボウ女子 ・ベアボウ男子 ・コンパウンド女子 ・コンパウンド男子 またはすべての部門の女子が先に行射し、その後に男子が行射する。
121	1	アウトドアアーチェリーにおけるリカーブ、ベアボウおよびコンパウンド部門のキャデット女子、キャデット男子、ジュニア女子、ジュニア男子、一般女子、一般男子、マスター女子およびマスター男子が対象となる。 ・50m(36射、キャデット女子およびマスター女子は122cm標的面) ・40m(36射、キャデット女子およびマスター女子) 1440ラウンドの中で行射された記録だけが、上記距離の記録となる。 ・60mラウンド(72射、キャデットおよびマスター) ・ダブル60mラウンド(144射、キャデットおよびマスター)	アウトドアアーチェリーにおけるリカーブ、ベアボウおよびコンパウンド部門の U18 女子、 U18 男子、 U21 女子、 U21 男子、一般女子、一般男子、 50+ 女子および 50+ 男子が対象となる。 ・50m(36射、 U18 女子および U18 女子は122cm標的面) ・40m(36射、 U18 女子および 50+ 女子) 1440ラウンドの中で行射された記録だけが、上記距離の記録となる。 ・60mラウンド(72射、 U18 および 50+) ・ダブル60mラウンド(144射、キャデットおよびマスター) ・ 団体60mラウンド(3名×72射、U18)
	2	インドアーチェリーにおけるリカーブ、ベアボウおよびコンパウンド部門のキャデット女子、キャデット男子、ジュニア女子、ジュニア男子、一般女子、一般男子、マスター女子およびマスター男子が対象となる。	インドアーチェリーにおけるリカーブ、ベアボウおよびコンパウンド部門の U18 女子、 U18 男子、 U21 女子、 U21 男子、一般女子、一般男子、 50+ 女子および 50+ 男子が対象となる。
	4		【新規追加】 インドアラウンドは屋外で実施しても記録の対象となる。

条	項	2020～2021年版	2022～2023年版																								
122	2	本連盟で管理する公認記録は日本記録・日本ジュニア記録・日本キャデット記録・日本国際記録とする。	本連盟で管理する公認記録は日本記録・日本U21記録・日本U18記録・日本国際記録とする。																								
123	1	<p>.....</p> <p>全種目・全部門 共通 グリーンバッジ(安全バッジ)</p> <table border="1"> <tr> <td>アウトドア</td> <td>30m36射</td> <td>200点以上</td> </tr> <tr> <td>インドア</td> <td>18m60射</td> <td>240点以上</td> </tr> <tr> <td>フィールド(BB・RC)</td> <td>マーク12標的</td> <td>50点以上</td> </tr> <tr> <td>フィールド(CP)</td> <td>マーク12標的</td> <td>60点以上</td> </tr> </table>	アウトドア	30m36射	200点以上	インドア	18m60射	240点以上	フィールド(BB・RC)	マーク12標的	50点以上	フィールド(CP)	マーク12標的	60点以上	<p>.....</p> <p>全種目・全部門 共通 グリーンバッジ(安全バッジ) <u>グリーンバッジは、公認審判員の立ち合いの元に記録された各種目の記録に応じて交付され、競技に安全に参加できることを証明する。</u></p> <table border="1"> <tr> <td>アウトドア(全部門)</td> <td>30m36射</td> <td>200点以上</td> </tr> <tr> <td>インドア(全部門)</td> <td>18m60射</td> <td>240点以上</td> </tr> <tr> <td>フィールド(BB・RC)</td> <td>マーク12標的</td> <td>50点以上</td> </tr> <tr> <td>フィールド(CP)</td> <td>マーク12標的</td> <td>60点以上</td> </tr> </table>	アウトドア(全部門)	30m36射	200点以上	インドア(全部門)	18m60射	240点以上	フィールド(BB・RC)	マーク12標的	50点以上	フィールド(CP)	マーク12標的	60点以上
アウトドア	30m36射	200点以上																									
インドア	18m60射	240点以上																									
フィールド(BB・RC)	マーク12標的	50点以上																									
フィールド(CP)	マーク12標的	60点以上																									
アウトドア(全部門)	30m36射	200点以上																									
インドア(全部門)	18m60射	240点以上																									
フィールド(BB・RC)	マーク12標的	50点以上																									
フィールド(CP)	マーク12標的	60点以上																									
125	3	<p>アウトドア各距離の標的面の寸法と標的面の設置 122cm標的面は、90m、70mおよび60mの距離(キャデット、マスター女子50m)で使用する。.....</p>	<p>アウトドア各距離の標的面の寸法と標的面の設置 122cm標的面は、90m、70mおよび60mの距離(U18、<u>50+</u>女子50m)で使用する。.....</p>																								
126	1	<p>(6) マークコースの行射時には、シューティングペグにその距離を表示する。シューティングペグは、それぞれのカテゴリーに応じて下記の色とする。 ● 青色は、ベアボウ、キャデットリカーブおよびキャデットコンパウンド ● 赤色は、リカーブおよびコンパウンド ● 黄色は、キャデットベアボウ</p> <p>(9) アンマークコースのユニット</p> <table border="1"> <tr> <th>黄色のペグ</th> <th>青色のペグ</th> </tr> <tr> <td>ベアボウキャデット ロングボウ</td> <td>リカーブキャデット コンパウンドキャデット ベアボウ インスティンクティブボウ</td> </tr> </table> <p>(10) マークコースのユニット</p> <table border="1"> <tr> <th>黄色のペグ</th> <th>青色のペグ</th> </tr> <tr> <td>ベアボウキャデット ロングボウ</td> <td>リカーブキャデット コンパウンドキャデット ベアボウ インスティンクティブボウ</td> </tr> </table>	黄色のペグ	青色のペグ	ベアボウキャデット ロングボウ	リカーブキャデット コンパウンドキャデット ベアボウ インスティンクティブボウ	黄色のペグ	青色のペグ	ベアボウキャデット ロングボウ	リカーブキャデット コンパウンドキャデット ベアボウ インスティンクティブボウ	<p>マークコースの行射時には、シューティングペグにその距離を表示する。シューティングペグは、それぞれのカテゴリーに応じて下記の色とする。 ● 青色は、ベアボウ、<u>U18</u>リカーブおよび<u>U18</u>コンパウンド ● 赤色は、リカーブおよびコンパウンド ● 黄色は、<u>U18</u>ベアボウ</p> <p>アンマークコースのユニット</p> <table border="1"> <tr> <th>黄色のペグ</th> <th>青色のペグ</th> </tr> <tr> <td>ベアボウ<u>U18</u> ロングボウ</td> <td>リカーブ<u>U18</u> コンパウンド<u>U18</u> ベアボウ <u>トラディショナル</u></td> </tr> </table> <p>マークコースのユニット</p> <table border="1"> <tr> <th>黄色のペグ</th> <th>青色のペグ</th> </tr> <tr> <td>ベアボウ<u>U18</u> ロングボウ</td> <td>リカーブ<u>U18</u> コンパウンド<u>U18</u> ベアボウ <u>トラディショナル</u></td> </tr> </table>	黄色のペグ	青色のペグ	ベアボウ <u>U18</u> ロングボウ	リカーブ <u>U18</u> コンパウンド <u>U18</u> ベアボウ <u>トラディショナル</u>	黄色のペグ	青色のペグ	ベアボウ <u>U18</u> ロングボウ	リカーブ <u>U18</u> コンパウンド <u>U18</u> ベアボウ <u>トラディショナル</u>								
黄色のペグ	青色のペグ																										
ベアボウキャデット ロングボウ	リカーブキャデット コンパウンドキャデット ベアボウ インスティンクティブボウ																										
黄色のペグ	青色のペグ																										
ベアボウキャデット ロングボウ	リカーブキャデット コンパウンドキャデット ベアボウ インスティンクティブボウ																										
黄色のペグ	青色のペグ																										
ベアボウ <u>U18</u> ロングボウ	リカーブ <u>U18</u> コンパウンド <u>U18</u> ベアボウ <u>トラディショナル</u>																										
黄色のペグ	青色のペグ																										
ベアボウ <u>U18</u> ロングボウ	リカーブ <u>U18</u> コンパウンド <u>U18</u> ベアボウ <u>トラディショナル</u>																										
128	1	<p>(7)</p> <p>b 青色のペグ ベアボウ男女 ロングボウ男女 インスティンクティブボウ男女 最長距離は30m 最短距離は5m</p>	<p>.....</p> <p>b 青色のペグ ベアボウ男女 ロングボウ男女 <u>トラディショナル</u>男女 最長距離は30m 最短距離は5m</p>																								

第2部 ターゲットアーチェリー

条	項		2020～2021年版	2022～2023年版
204	2	(1)	……弦にはピープホール、目印またはその他一切の照準の助けになるものがあるてはならない。	……弦にはピープホール、目印またはその他一切の照準の助けになるものがあるてはならない。 <u>弦のセンターサービングの端は、フルドロウのとき、競技者の視野内に入ってはならない。</u>
		6	(1) スタビライザーが取り付けられていない限り、弓の一部として、振動吸収用のダンパーを使用することができる。	<u>振動吸収用のダンパーは使用することができる。これらは製造業者によってライザーに組み込まれているものか、市販品のダンパーをライザーまたはおもりに直接取り付けられたものを指す。いかなるおもりと衝撃吸収用のダンパーの組み合わせも曲げることなく内径12.2cm(±0.5mm)のリングを通り抜けなければならない。製造業者によってライザーに取り付けられたスタビライザー用の挿入孔の使用は許されるが、角度のついたブラケットやコネクターの取り付けは許されない。おもりおよびダンパーはライザーのグリップの下と上に付けてもよいが、決して競技者の照準の助けにはなならない。</u>
		(2) ライザーの下部におもりを付けることができる。その形状にかかわらずすべてのおもりはロッド、エクステンション、角度調整装置、ショックアブソーバー装置を装着せずに直接ライザーに取り付けなければならない。	【削除】	
	8	(1) 印または線を、直接タブにもしくはタブの表面に付けられたテープに付けてもよい。これらのマークは、サイズ、形状、色が一定であること。	印または線を、直接タブにもしくはタブの表面に付けられたテープに付けてもよい。これらのマークは、サイズ、形状、色を一定とし、 <u>長さは2種類まで認められる。</u>	
206	2	(1)	1エンドの制限時間は、3射のエンドでは2分、6射のエンドでは4分とする。	【削除】 <u>以下、(2)および(3)を繰り上げ</u>
		(4)	競技会中(予選ラウンドの間)審判員によって確認された用具故障、医師等によって確認された医学的な問題が発生した場合、修理、交換、快復に必要な特別時間が与えられる。医学的問題については、競技者が競技を続けるかどうかを医師等が判断する。ただし、補充矢を行射する時間は最大15分(通常を行射手順および行射時間による)もしくは、エンド数でアウトドアでは6本の2エンド、インドアでは3本の3エンドとし、どちらかの方法で行う。競技者は、最も早い機会に所定の本数を審判員立ち会いのもとで行射する。	【削除】
		a	用具故障が起こった場合、競技者はシューティングラインから下がり、審判員を呼ぶ。	【削除】
		(5)	用具故障の修理や医学的処置のために、行射の順序を一時的に変更することができる。	【削除】

条	項		2020～2021年版	2022～2023年版
206 つづき	2 つづき	(6) ↓ (3)	オリンピックラウンドのイリミネーションラウンドおよびファイナルラウンド、コンパウンドマッチラウンド、ベアボウマッチラウンドおよびインドアマッチラウンドでは用具故障、医学的問題による特別時間は与えられない。しかし、用具の故障があった競技者は、制限時間の範囲内で、シューティングラインを離れて修理または交換を行い、戻って残りの矢を行射することができる。団体戦では、その間に、そのチームの他のメンバーが行射することができる。	オリンピックラウンドのイリミネーションラウンドおよびファイナルラウンド、コンパウンドマッチラウンド、ベアボウマッチラウンドおよびインドアマッチラウンドでは用具故障、医学的問題による特別時間は与えられない。しかし、用具の故障があった競技者は、制限時間の範囲内で、シューティングラインを離れて修理または交換を行い、戻って残りの矢を行射することができる。団体戦では、その間に、そのチームの他のメンバーが行射することができる。 【以下、各号を順次繰り上げ】
207	2	(2)	g コンパウンドの団体戦では、競技者はシューティングラインに位置して行射の合図が与えられるまで、リリースエイドを弦に取り掛けてはならない。競技者がシューティングラインに位置し、行射の合図が与えられた後、矢を弦につがえる前もしくは後に、リリースエイドを取り付けることができる。この制限は、弦に常時取り掛けたリリースエイドを口でリリースすることをクラス分けで認められたパラ競技者には適用されない。	g コンパウンドの団体戦では、競技者はシューティングラインに位置して行射の合図が与えられるまで、リリースエイドを弦に取り掛けてはならない。競技者がシューティングラインに位置し、行射の合図が与えられた後、矢を弦につがえる前もしくは後に、リリースエイドを取り付けることができる。この制限は、弦に常時取り掛けたマウスタブを口でリリースすることをクラス分けで認められたパラ競技者には適用されない。
		(3)	e 先射ちチームの最終矢の得点が表示されると、後射ちチームの行射時間が開始し、最初の競技者が1mラインを越え、行射を開始する。	e 先射ちチームの最終矢の得点が表示されると、後射ちチームの行射時間が開始し、最初の競技者が1mラインを越え、行射を開始する。 先射ちチームの最終矢の得点が表示されると、後射ちチームの時計が動き始めたとき、最初の競技者が1mラインを越え、行射を開始する。
	3	(1)	オリンピックラウンド、コンパウンドマッチラウンド、ベアボウマッチラウンドおよびインドアマッチラウンドのマッチで、競技者が交互に行射するとき(シュートオフを含む)、1射20秒とする。	1エンドあたりの制限時間は各エンドで行射する矢の合計本数によって以下の通り定める。
				a 本連盟主催の競技会 ・ 交互射ちの個人戦、団体戦およびミックス戦の場合は、シュートオフも含めて、1射につき20秒とする。 ・ 予選ラウンド、交互射ちではないオリンピックラウンド、コンパウンドマッチラウンド、ベアボウマッチラウンドおよびインドアマッチラウンドにおける個人戦の場合は、シュートオフも含めて、1射につき30秒とする。 ・ パラアーチェリーラウンドにおいては、上記いずれの場合にも1射につき10秒加算する。

条	項	2020～2021年版	2022～2023年版	
207 つづき	3 つづき		<p>b その他のすべての競技会 <u>2023年3月1日までは下記の通りとする。それ以降については、改めて通達する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>交互射ちの個人戦、団体戦およびミックス戦の場合は、シュートオフも含めて、1射につき20秒(パラアーチェリーでは30秒)とする。</u> ・ <u>予選ラウンド、交互射ちではないオリンピックラウンド、コンパウンドマッチラウンド、ベアボウマッチラウンドおよびインドアマッチラウンドにおける個人戦の場合は、シュートオフも含めて、1射につき40秒とする。</u> <u>ただし、要項等にあらかじめ記載することによって1射につき30秒とすることもできる。</u> 	
		(2)	<p>パラ競技者がパラアーチェリーの競技会において、交互射ちの対戦で1射シュートオフを含む)するときには、制限時間は30秒とする。</p>	【削除】
		(3)	<p>次の場合、制限時間は40秒とする。</p> <p>a 発射できなかった矢を補充するとき(1射につき)。</p> <p>b 同点で順位を決めるとき。</p> <p>c ミックス団体戦のシュートオフで2射(1射20秒)するとき。</p>	【削除】
		(4)	<p>団体戦のマッチが同点で順位を決める場合、チームが3射(各競技者が1射ずつ)するときには、制限時間は1分とする。</p>	【削除】
		(5)	<p>ミックス団体戦で2人の競技者が4射するときには、制限時間は80秒とする。</p>	【削除】
		(6)	<p>競技者が1エンドに3射するとき、および、団体戦のマッチで、チームで6射するときには、制限時間は2分とする。</p>	【削除】
		(7)	<p>競技者が1エンドで6射するときには、制限時間は4分とする。</p>	【削除】
		(8)	<p>制限時間は、特別の事情がある場合、延長することができる。</p>	<p>制限時間は、特別の事情がある場合、延長することができる。</p>
		(2)		
6	(1)	<p>個人戦では、1射につき40秒、(オリンピックラウンド、コンパウンドマッチラウンド、ベアボウマッチラウンドおよびインドアマッチラウンドの交互射ちの場合、20秒)を与える。</p>	<p>個人戦では、<u>オリンピックラウンド、コンパウンドマッチラウンド、ベアボウマッチラウンドおよびインドアマッチラウンドにおける1射あたりの制限時間は、第207条3項およびそれに続く規則に従って与える。</u></p>	
208	5	(2)	<p>イリミネーションラウンドへの進出、上位8名を決める場合(第1部総則:付則1マッチプレイチャートの図9:マッチプレイチャート1A、図10:マッチプレイチャート1Bまたは図14:マッチプレイチャート5を使用する場合)またはマッチ戦の同点は、シュートオフで順位を決定する(10点数、X数(またはインドアでは9点数)を考慮しない)。</p>	<p>イリミネーションラウンドへの進出、<u>マッチ戦の同点、または上位8名を決めるときに同点の場合</u>(第1部総則:付則1マッチプレイチャートの図9:マッチプレイチャート1A、図10:マッチプレイチャート1Bまたは図14:マッチプレイチャート5を使用する場合)、シュートオフで<u>同点を解消する</u>(10点数、X数(またはインドアでは9点数)を考慮しない)。</p>

条	項		2020～2021年版	2022～2023年版
208 つづき	5 つづき		<p>i アウトドアでシュートオフを行う場合、標的の設置は以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人戦のとき、行射はフィールド中央に近い、中立の標的を使用し、1競技者1標的とする。 ・ 個人戦のとき、マルチ標的面を使った場合、競技者は、それまでの競技で行射していた同じ位置(A、B、CまたはD)の標的面を行射する。 ・ 団体戦のとき、行射はフィールド中央の中立の標的を使用し、チーム毎に1標的に1枚標的面、また、三角形に設置された3枚の80cmマルチ標的面を使用する。マルチ標的面を使用する場合、チームの各競技者がどの標的面を行射するかを決定する。 	<p>i アウトドアでシュートオフを行う場合、標的の設置は以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人戦のとき、行射はフィールド中央に近い、中立の標的を使用し、1競技者1標的とする。 ・ <u>コンパウンドでは、バットの中央に80cm-6リング標的面を設置する。</u> ・ 団体戦のとき、行射はフィールド中央の中立の標的を使用し、チーム毎に1標的に1枚標的面、また、三角形に設置された3枚の80cmマルチ標的面を使用する。マルチ標的面を使用する場合、チームの各競技者がどの標的面を行射するかを決定する。
217	1	(8)	<p>テレビ放映や動画配信のあるファイナルラウンドにおいては、アンダーシャツ、コンプレッションシャツもしくはコンプレッションスリーブは、チームのユニフォームと同色もしくは白色(デザイン入り、名前やマークの表示は可能だが、主要な色は白色)であれば着用できる。</p>	<p>テレビ放映や動画配信のあるファイナルラウンドにおいては、アンダーシャツ、コンプレッションシャツもしくはコンプレッションスリーブは、チームのユニフォームの<u>主要な色</u>と同色もしくは白色(デザイン入り、名前やマークの表示は可能だが、主要な色は白色)であれば着用できる。</p>
219			クラス分け委員	<u>クラス分け</u>
220			<p>視覚障害種別 VI1にクラス分けされた視覚障害競技者は、行射時に目隠しを着用する。VI2およびVI3にクラス分けされた競技者は目隠しを使用しない。すべてのVI1競技者は研修を受けた専門のVIクラス分け委員によってクラス分けされる。</p>	<p><u>視覚障害のある競技者は、クラス分け委員のハンドブックに記載された基準に従ってクラス分けされる。</u></p>
	1		<p>リカーブ 個人 ● 女子オープン ● 男子オープン 団体 ● 女子オープン ● 男子オープン ● 用具規則は、WA競技規則と同一だが、第223条8項に規定するリリースエイドの使用を除く。</p>	<p>リカーブ 個人 ● 女子オープン ● 男子オープン <u>ダブルス</u> ● 女子オープン ● 男子オープン <u>ミックス団体</u> ● <u>リカーブ オープン</u> 用具規則は、<u>ターゲットアーチェリーの規定と同じ</u>だが、第223条8項に規定するリリースエイドの使用を除く。</p>
	2		<p>コンパウンド 個人 ● 女子オープン ● 男子オープン 団体 ● 女子オープン ● 男子オープン</p>	<p>コンパウンド 個人 ● 女子オープン ● 男子オープン <u>ダブルス</u> ● 女子オープン ● 男子オープン <u>ミックス団体</u> ● <u>コンパウンド オープン</u> 用具規則は、<u>ターゲットアーチェリーの規定と同じである。</u></p>

条	項	2020～2021年版	2022～2023年版
220 つづき	3	視覚障害(VI) ● VI1 ● VI2/VI3 この種別には男女、リカーブ、コンパウンドいずれの区別も設けない。 この部門の用具規則は、第226条(視覚障害競技者)を参照。	視覚障害(VI) ● VI1 ● VI2-3 この種別には男女、リカーブ、コンパウンドいずれの区別も設けない。 この部門の用具規則は、第226条(視覚障害競技者)を参照。
	4	W1オープン(リカーブ・コンパウンドとも)個人 ● 女子W1オープン ● 男子W1オープン 団体 ● 女子W1オープン ● 男子W1オープン 以下に挙げるW1クラスの特例を除いて、用具規定はWAの規定と同じである。 ・引き重量は、最大で45ポンドとする。 ・ピープサイトおよびスコープサイトの使用は認められない。 ・リップまたはノーズマークは1個のみ付けることができる。 ・水準器の使用は認められない。 ・リリースエイドは使用することができる。 ・W1 50mラウンド、W1 マッチラウンド、W1 団体戦およびW1 ミックス団体戦では全寸法の80cm標的面を使用する。	W1オープン(リカーブ・コンパウンドとも)個人 ● 女子W1オープン ● 男子W1オープン <u>ダブルス</u> ● 女子W1オープン ● 男子W1オープン <u>ミックス 団体</u> ● <u>W1 オープン</u> <u>W1の種別では、リカーブまたはコンパウンドの弓を使用することができる。</u> 以下に挙げる <u>W1クラスの特例</u> を除いて、用具規定は <u>ターゲットアーチェリー</u> の規定と同じである。 ・引き重量は、最大で45ポンドとする。 ・ピープサイトおよびスコープサイトの使用は認められない。 ・リップまたはノーズマークは1個のみ付けることができる。 ・水準器の使用は認められない。 ・リリースエイドは使用することができる。 W1 50mラウンド、W1 マッチラウンド、W1 <u>ダブルス</u> およびW1 ミックス団体戦では <u>すべてのラウンドで10個の得点帯のある全寸法の80cm標的面を使用する。</u> <u>ダブルスの時間の規定はミックス団体と同じである。</u>
	5	女子W1オープンの参加者数が少ない場合、女子W1競技者を男子W1競技者と合わせてW1オープン競技とすることができる。	【削除】
222	2	クラス分けカードは、プラスチック製または紙製である。紙製はプラスチック製が用意されるまで発行される。	【削除】 <u>以下、3項を繰り上げ</u>
223	1	国際もしくは国内クラス分け委員に認定されたクラス分けカードを所有する競技者は、補助用具を使用することができる。補助用具には次のものが含まれる。	国際もしくは国内クラス分け委員に認定されたクラス分けカードを所有する競技者は、補助用具を使用することができる。 <u>補助用具については付則3:補助器具を参照。</u>

条	項	2020～2021年版	2022～2023年版																																						
223 つづき	3	車椅子	【削除】 付則3に移動																																						
	4	スツール																																							
	5	ブロック																																							
	6	許可される身体支持具																																							
	7	義手																																							
	8	リリースエイド																																							
	9	ボウバンテージ																																							
	10	押し手の添え木																																							
	11	引き手の添え木																																							
	12	アシスタント																																							
	224	2		ミックス団体戦を含む団体戦の特別規定	すべての団体戦の特別規定																																				
		(1)		団体戦では、チームの全競技者がシューティングライン上に残ることができる。	競技者はシューティングライン上に残ることができる。																																				
3		リカーブ部門には団体戦がある。	【削除】																																						
4		コンパウンド団体戦では、同一のランキンググラウンドに出場していれば、W1 およびオープン種別の競技者がチームを構成することができる。さもなければ、W1およびオープン種別は別のチームを構成することができる。	【削除】																																						
5		ミックスチームは、同一ボウタイプの男女各1名で構成する。	【削除】																																						
<u>3</u>			<p>【新規追加】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">競技</th> <th colspan="4">種別</th> </tr> <tr> <th>RC オープン</th> <th>CP オープン</th> <th>W1</th> <th>視覚障害</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>女子個人</td> <td>あり</td> <td>あり</td> <td>あり</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>男子個人</td> <td>あり</td> <td>あり</td> <td>あり</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>個人 (男女混合)</td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td>あり</td> </tr> <tr> <td>女子 ダブルス</td> <td>あり</td> <td>あり</td> <td>あり</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>男子 ダブルス</td> <td>あり</td> <td>あり</td> <td>あり</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>ミックス</td> <td>あり</td> <td>あり</td> <td>あり</td> <td>なし</td> </tr> </tbody> </table> <p>ダブルス 同じ種別の同性の2競技者によって構成される団体 ミックス団体 同じ種別の男女1名ずつの競技者によって構成される団体</p>	競技	種別				RC オープン	CP オープン	W1	視覚障害	女子個人	あり	あり	あり	なし	男子個人	あり	あり	あり	なし	個人 (男女混合)	なし	なし	なし	あり	女子 ダブルス	あり	あり	あり	なし	男子 ダブルス	あり	あり	あり	なし	ミックス	あり	あり	あり
競技	種別																																								
	RC オープン	CP オープン	W1	視覚障害																																					
女子個人	あり	あり	あり	なし																																					
男子個人	あり	あり	あり	なし																																					
個人 (男女混合)	なし	なし	なし	あり																																					
女子 ダブルス	あり	あり	あり	なし																																					
男子 ダブルス	あり	あり	あり	なし																																					
ミックス	あり	あり	あり	なし																																					
225	4	(2) 個人戦のレーン幅は、最低2. 60m (または3. 90m)	個人戦のレーン幅は、最低 <u>2. 50m</u> (または <u>3. 75m</u>)																																						
		(3) 団体戦のレーン幅は、最低3. 90m	ダブルスおよびミックス団体戦のレーン幅は、最低 <u>3. 75m</u>																																						

条	項	2020～2021年版	2022～2023年版
226	9	アシスタント	<u>スポッター</u>
		(1) VI競技者には、アシスタントが帯同できる。アシスタントは、競技者の後方で、かつシューティングラインの1m後方に立つ、または座ることができる。	VI競技者は、 <u>スポッターを帯同することができ、シューティングラインの1m後方に座るか立つことができる。</u>
		(2) アシスタントの役目は、標的面上の矢の位置を競技者に知らせること、および安全管理面の情報を伝えることである。	<u>スポッター</u> の役目は、標的面上の矢の位置を競技者に知らせること、および安全管理面の情報を伝えることである。
		(3) アシスタントは、情報を伝えるとき、他の競技者の妨げにはなならない。	<u>スポッター</u> は、情報を伝えるとき、他の競技者の妨げにはなならない。
		(4) 競技者が行射を終えたとき、アシスタントはウェイトライン手前に移動する。競技者は自らの判断で競技が終了するまでシューティングラインに残ってもウェイトライン後方に戻ってもよい。	競技者が行射を終えたとき、 <u>スポッター</u> はウェイトライン手前に移動する。競技者は自らの判断で競技が終了するまでシューティングラインに残ってもウェイトライン後方に戻ってもよい。
		(5) アシスタントが競技者のサイト修正および弓具の調整ができるのは、練習時間中および矢取りの間だけである。アシスタントは標的まで競技者に同行し、競技者とともにシューティングラインに戻ることができる。競技者は、行射中いつでも触知式サイトの調整をしてよい。	<u>スポッター</u> が競技者のサイト修正および弓具の調整ができるのは、練習時間中および矢取りの間だけである。 <u>スポッター</u> は標的まで競技者に同行し、競技者とともにシューティングラインに戻ることができる。競技者は、行射中いつでも触知式サイトの調整をしてよい。
		(6) アシスタントは、競技者に代わって採点を行うが、各競技者が自分のスコアカードに署名する。	<u>スポッター</u> は、競技者に代わって採点を行うが、各競技者が自分のスコアカードに署名する。
		(7) 競技者およびアシスタントは、パートナーとして分かりやすいよう、同一ユニフォームを着用し、競技者番号が使用されるときは同一の番号を付ける。	競技者および <u>スポッター</u> は、パートナーとして分かりやすいよう、同一ユニフォームを着用する。
(8) 個人マッチ戦の間、視覚障害(VI)競技者は、アシスタントまたはコーチを帯同できるが、両方とも帯同することはできない。	個人マッチ戦の間、VI競技者は、 <u>スポッター</u> またはコーチを帯同できるが、両方とも帯同することはできない。		
付則3			【新規追加】 補助用具
1	1		車椅子 <u>原理的に容認され得るもので、「車椅子」という言葉に適合していれば、どのような形式の車椅子も使用できるが、地上に接する4個を超える車輪があってはならない。</u>
		(1)	<u>行射中、車椅子のどの箇所も、押し手を補助してはならない。</u>
		(2)	<u>すべての車椅子の競技者は、競技者の骨盤の上の胴体を保持し車椅子から横向きに落ちるのを防止すると定義されるどのような側面保持の器具を持つ車椅子も使用することができる。</u>
		a	<u>側面保持の器具は、競技者の胸骨の基部と第7胸椎の間で計測される肋骨の幅の半分よりも前方に突き出してはならない。</u>

条	項		2020～2021年版	2022～2023年版
1 つづき	1 つづき	(3)		車椅子のすべての背面部分と側面保持の器具は、どの距離での行射時にも競技者の腋の下110mmより下になければならない。肩の位置が水平でない、あるいは回転している場合(脊柱側弯症など)、低い方の肩の腋の下から計測する。
				a W1クラスの競技者の場合、医療上の理由で車椅子の背面部分の高さが腋の下から110mm離れてはいけない場合、クラス分け委員によって追加の長さが認められる場合があり、競技者のクラス分けカードカードに記載される。
				b 車椅子の背面部分に取り付けられた手押しハンドルは、車椅子の一部としてみなされ、規定にあった高さにするか、取り外さなければならない。
				c 車椅子の背面部分に直接取り付けられていない手押しハンドルは、上記の規定には該当せず、車椅子の背面部分とはみなさない。
		(4)		車椅子の長さは、1.25mを超えてはならない。
		(5)		転倒防止器具の使用は認められる。
		(6)		傾倒防止器具は、地上に接していなければ使用することができる。
		(7)		競技者の足および車椅子のフットレストは、行射するときに地面と接してはならない。
2				ストラップ
	1			すべてのクラスにおいて、ストラップは医療上、もしくは安全性の理由でのみ使用が認められ、パフォーマンスの向上を目的とした利用は認められない。
	2			W1競技者で、クラス分けカードにストラップの使用が記載されている場合、行射中に押し手の支えにならない限り、体の安定を維持させるためどのような組み合わせでも必要な数のストラップを使用することができる。
	3			W1競技者は、クラス分け委員によって医療上の理由から必要と認められた場合、非剛性のコルセットタイプの補助器具、もしくはチェストストラップを使用することができる。
	4			W2競技者で、クラス分けカード上にストラップの使用が記載されている場合、どの部分も5cmを超えない幅で、胴体部分を水平に1周する1本のストラップを使用することができ、高さ制限110cmまたはそれ以下の位置でなければならない。

条	項	2020～2021年版	2022～2023年版
2 つづき	5		一部の競技者については、脚部のストラップがクラス分けカードに記載されていれば認められ、その幅は5cm以内に限られる。脚部のストラップは安全上の理由でのみ使用が認められ、足首や膝および／または太腿の中央に取り付けることができる。
	6		医学的な理由や医学専門家による処方がある場合、また、剛性または非剛性に関わらずコルセットタイプの補助器具が短期間必要となる場合、クラス分け委員によって使用期間を認められる場合がある。W2競技者は、コルセットとストラップを併用してはならない。
	(1)		使用期間は、クラス分けカードに修正した日付とともに記載され、クラス分け委員によって決定される。一時的な仕様の理由は、クラス分けカードに明確に記載されなければならない。
3			スツール
	1		スツールは下肢障害が38点以上のスタンディングクラスの競技者が使用することが認められる。
	2		スツールはどのような背もたれもあってはならない。
	3		スツールは、競技者と用具を含めてシューティングライン上の競技者に割り当てられた幅に収まらなければならない(パラアーチェリーでは、1.25mの幅が認められる)。
	4		下肢障害が38点に満たない競技者であっても、立位の安定性が悪い場合、安全上の理由からクラス分け委員によってスツールの使用が認められることがある。スツール使用を承認するための正当性は、クラス分けカードのコメント欄に明確に記載されなければならない。
4			リリースエイドシステム
	1		クラス分け委員は、競技者がその機能障害に基づき規則にあったリリースエイドを使用することを補助する単純なシステム(単純なハーネス等)の使用を認める場合がある。
	2		リリースエイドシステムは、側面保持の機能、または剛性のあるコルセットとしての機能を有してはならない。
	3		リリースエイド本体については、競技規則(第10章 競技者の用具)に基づき、競技会の審判員によって使用が認められなければならない。
	4		パラ競技者は、弦に恒常的に取り付けられていれば、マウスタブの使用を認められる。

条	項	2020～2021年版	2022～2023年版
5			ボウバンテージ
	1		<u>押し手に障害のあるパラ競技者は、クラス分け委員によって適切と判断された場合、弓のグリップと手に固定するためにボウバンテージを使用することができる。ボウバンテージは非剛性のストラップで、矢をリリースするときに弓の動きを阻害せずに弓の保持を補助するものとする。</u>
6			押し手の補助器具
	1		<u>弓を保持することができない競技者は、人工的な補助器具または装具を使用することができる。この補助器具は、矢をリリースするときに弓の動きを阻害せずに完全に固定されないものであれば、弓に取り付けることができる。</u>
	2		<u>どのような場合でも、電氣的または電子的に制御されたものは認められない。</u>
7			押し手の添え木
	1		<u>押し手に障害のあるパラ競技者は、クラス分け委員によって競技者の機能障害に基づいて適切と判断された場合、肘および／または手首に添え木を使用することができる。このことはクラス分けカードに明確に記載されなければならない。</u>
8			引き手の添え木
	1		<u>引き手に障害のあるパラ競技者は、クラス分け委員によって競技者の機能障害に基づいて適切と判断された場合、引き手の添え木、または引き手の添え木とリリースエイドの組み合わせたものを使用することができる。</u>
9			ブロックまたはくさび
	1		<u>ブロックまたはくさびは、競技規則第202条10項(1)に記載の通り、承認を必要としない。 「足またはその一部を持ち上げる装置は、靴に付着しているか否かに係らず、許可される。ただし、シューティングライン上の他の競技者の妨げにはならない。また、その台がシューティングラインをまたぐ形状であったり、足や地面(床面)に固定されていたり、靴の側面から2cm以上はみ出てはならない。」</u>
10			アシスタント
	1		<u>矢を安全にまたは効率的につがえることができない、またはサイトを調整できない上肢に障害のあるW1もしくはスタンディングの競技者は、クラス分け委員の承認に基づき、アシスタントを付けることができる。行射のアシスタントは、行射終了の合図があるまでサイトを調整してはならない。</u>

条	項	2020～2021年版	2022～2023年版
<u>10</u> <u>つづき</u>	<u>2</u>		<u>アシスタントは、他の競技者の妨げになつてはならず、パラ競技者と同じユニフォームと競技者番号付けなければならない。パラ競技者がアシスタントの使用を認められた場合、アシスタントは予選ラウンドの間とマッチ戦の間の両方で補助しなければならない。</u>
<u>11</u>	<u>1</u>		<u>視覚障害の補助</u> <u>使用が許される補助器具は、競技規則第226条に記載の通り、目隠し、触知式サイト、およびスポッターまたはコーチである。</u>

第3部 フィールドおよび3Dアーチェリー

条	項		2020～2021年版	2022～2023年版
304	6	(1)	スタビライザーが取り付けられていない限り、弓の一部として、振動吸収用のダンパーを使用することができる。	<u>振動吸収用のダンパーは使用することができる。これらは製造業者によってライザーに組み込まれているものか、市販品のダンパーをライザーまたはおもりに直接取り付けたものを指す。いかなるおもりと衝撃吸収用のダンパーの組み合わせも曲げることなく内径12.2cm(±0.5mm)のリングを通り抜けなければならない。製造業者によってライザーに取り付けられたスタビライザー用の挿入孔の使用は許されるが、角度のついたブラケットやコネクターの取り付けは許されない。おもりおよびダンパーはライザーのグリップの下と上に付けてもよいが、決して競技者の照準の助けにはならない。</u>
		(2)	ライザーの下部におもりを付けることができる。その形状にかかわらずすべてのおもりはロッド、エクステンション、角度調整装置、ショックアブソーバー装置を装着せずに直接ライザーに取り付けなければならない。	【削除】
	8	(1)	印または線を、直接タブにもしくはタブの表面に付けられたテープに付けてもよい。これらのマークは、サイズ、形状、色が一定であること。	印または線を、直接タブにもしくはタブの表面に付けられたテープに付けてもよい。これらのマークは、サイズ、形状、色を一定とし、長さは2種類まで認められる。
305			インスティンクティブボウ部門の用具の通則 インスティンクティブボウ部門では、以下の用具を使用することができる。	<u>トラディショナル</u> 部門の用具の通則 <u>トラディショナル</u> 部門では、以下の用具を使用することができる。

条	項	2020～2021年版	2022～2023年版
305 つづき	1	<p>弓は、ターゲットアーチェリーで使用されるもので、常識的に「弓」という言葉に適合していれば、どのような形式のものも使用することができる。すなわち、弓は、ハンドル／ライザー、グリップ、(シュートスルータイプは不可)および両先端にストリングノックが設けられた2本の弾力性のあるリムによって構成された器具である。ライザーは、天然または樹脂を基にした素材で作られる(例:木、竹、動物の角、布、ファイバーグラスおよびライザーの一部にカーボン、グラファイトまたは金属が含まれていてもよい)。ライザーは、合板構造または一本の木製でなければならない。弓は、テイクダウン方式でもよく、製造時に、ライザーにリムを装着するための金属製アタッチメント、およびサイト、クッションプランジャー、スタビライザー装着用のマウントやブッシングが組み込まれていてもよい。弓には、ティラー調整のみが可能なリムは装着できるが、引き重量調整用のリムポケットは装着できない。ライザーには、リムポケット保護のため、またはライザーの構造上の理由によって、6mm以下の天然または合成素材の合板を使用してもよい。ただし、ライザーの構造の4分の1以上が金属や合成素材を使用してはならない。</p>	<p>弓は、ターゲットアーチェリーで使用されるもので、常識的に「弓」という言葉に適合していれば、どのような形式のものも使用することができる。すなわち、弓は、ハンドル／ライザー、グリップ、(シュートスルータイプは不可)および両先端にストリングノックが設けられた2本の弾力性のあるリムに2個のストリングノックの間に、ただ1本の弦を直接掛けるように張って構成された器具である。引くときには、一方の手でハンドル(グリップ)を持ち、他方の手の指で弦を引き、リリースする。ライザーは、合板構造で木製の合板を含んでいるか、一本の木製でなければならない。弓は、テイクダウン方式でもよく、製造時に、ライザーにリムを装着するための金属製アタッチメント、スタビライザー用のブッシング等が組み込まれていてもよい。弓には、引き重量調整とティラー調整が可能なリムは装着できる。</p>
		<p>ライザーには、木または竹が使用されなければならない。ワンピースボウは、リムはどのような素材の合板であってもよく、ライザーに組み込まれていてもよい。弓は、2個のストリングノックの間に、ただ1本の弦を直接掛けるように張り、引くときには、一方の手でハンドル(グリップ)を持ち、他方の手の指で弦を引き、リリースする。 単純構造で貼り付け式のプラスチック製アローレストを除き、弓は、裸弓でなければならない(本条3項参照)、(ウインドウ部分に)照準の助けとなるいかなる突起物、目印、傷、薄片も付けてはならない。ライザー内部のウエイトは、弓の製造過程で組み込まれており、後から加工されたものでなければ許される。ウエイトは、ライザーに埋め込まれた製造者の商標を除き、ライザーの製造工程でねじ穴、キャップ等が塗料等で塗り込められ、外側から見えない状態であること。</p>	<p>単純構造で貼り付け式のプラスチック製アローレストを除き、弓は、裸弓でなければならない(本条3項参照)、ウインドウ部分に照準の助けとなるいかなる突起物、目印、傷、薄片も付けてはならない。ライザー内部のウエイトは、弓の製造過程で組み込まれており、後から加工されたものでなければ許される。ウエイトは、ライザーに埋め込まれた製造者の商標を除き、ライザーの製造工程でねじ穴、キャップ等が塗料等で塗り込められ、外側から見えない状態であること。</p>
	5	フェイスおよびストリングウォーキングは許されない。	フェイスおよびストリングウォーキングは許されない。
	7	……インスティンクティブ部門では、大きさ、形状および色が一定であるかないかに関わらず、競技者が目印を付け加えることはできない。	…… <u>トラディショナル</u> 部門では、大きさ、形状および色が一定であるかないかに関わらず、競技者が目印を付け加えることはできない。

条	項	2020～2021年版	2022～2023年版
305 つづき	7 つづき	(1) アンカーリングのために、指の保護具(タブ)に設けたアンカープレートまたは同様の装置は使用することができない。弓は「メディタレーニアン式」(1本の指は矢の上、2本の指は矢の下に置いて3本の指でリリースする)、または3本の指を矢の下(人差し指はノックの下から2mm以上離れてはならない)に置いて、固定した1箇所アンカーポイントから行射しなければならない。競技者は、メディタレーニアン式か3本の指をノックの下に置くかを選択しなければならないが、併用はできない。3本の指をノックの下に置いて行射する場合、タブは連続した表面でなければならず、矢を挟むことができないようにする。メディタレーニアン式の場合、矢を挟まないように指の間にセパレーターを使用することができる。	<u>アンカーリングのために、指の保護具(タブ)に設けたアンカープレートまたは同様の装置は使用することができない。行射するとき、人差し指または中指はノックから3mm以内に置くか、ノックに触れていなければならない(指を離すか3本の指を下に揃えて取り掛ける)。指を離して行射するときは、矢を挟まないように指の間にセパレーターを使用することができる。1箇所アンカーするか、フェイスウォーキングは許される。ストリングウォーキングは許されない。</u>
306	1	(1) ジュニアおよび女子の弓は150cm以下、男子の弓は160cm以下の長さであってはならない。弓の長さは、弦が張られた状態でリムの外(バック)側に沿ってストリングノック間を計測する。	<u>U21</u> および女子の弓は150cm以下、男子の弓は160cm以下の長さであってはならない。弓の長さは、弦が張られた状態でリムの外(バック)側に沿ってストリングノック間を計測する。
308	<u>4</u>		<u>【新規追加】</u> <u>フィールドおよび3Dの個人戦イリミネーションでは、競技者はスコアカードに記載された行射位置(左/右)のペグに立つ。</u>
313	2	……女子、男子またはジュニアチームのコーチは、同一所属団体の他のチームに合流することはできない。……	……女子、男子または <u>U21</u> チームのコーチは、同一所属団体の他のチームに合流することはできない。……
329	2		<u>イリミネーションラウンドへの進出、または予選ラウンドの上位2位を決定するときの同点は、シュートオフで同点を解消する。</u> <u>・フィールドラウンドでは、シュートオフはその部門の最長距離の標的で行う。</u> <u>・3Dラウンドでは、シュートオフは審判員が設置した距離で行う。</u> <u>・シュートオフは、同点が発生した部門のすべてのスコアカードの記録が確認された後、ただちに実施される。当該競技者またはチームの監督にシュートオフの通告がなされた後、30分以内に現れなければその権利を失う。公式に結果が確認されておらず、シュートオフが通告されていない場合、競技者およびチームの監督が競技場を離れていた場合、その競技者は権利を失う。</u>

条	項	2020～2021年版	2022～2023年版
329 つづき	2 つづき	(1) 個人戦のとき a 得点による1射のシュートオフを行う。 b 同点の場合、中心に近い矢により決定する。同じ距離の場合、1射のシュートオフを順位が決定するまで続ける。 c シュートオフの制限時間は、フィールドでは40秒とし、3Dでは1分とする。	個人戦の <u>シュートオフ</u> a 得点による1射のシュートオフを行う。 b 同点の場合、中心に近い矢により決定する。同じ距離の場合、1射のシュートオフを <u>同点が解消する</u> まで続ける。 c シュートオフの制限時間は、フィールドでは40秒とし、3Dでは1分とする。 <u>d このシュートオフは、予選ラウンドが終了した後に競技場の中央付近で行われる。</u>
		(2) 団体戦のとき a 得点による3射(各競技者1射)のシュートオフを行う。 b 同点の場合、チーム内で中心に最も近い矢で決定する。 c これも同じならば、チーム内で2番目(2番目も同じ場合、3番目)に中心に近い矢で決定する。 d 団体戦のシュートオフの制限時間はフィールドラウンド、3Dラウンドとも、2分とする。	団体戦の <u>シュートオフ</u> a 得点による3射(各競技者1射)のシュートオフを行う。 <u>b チームの競技者は同時に行射する(赤色と青色のペグ用の標的を設置する必要がある)。</u> c 同点の場合、チーム内で中心に最も近い矢で決定する。これも同じならば、チーム内で2番目(2番目も同じ場合、3番目)に中心に近い矢で決定する。 <u>d 団体戦のシュートオフの制限時間はフィールドラウンドでは40秒とし、3Dラウンドでは1分とする。</u> <u>e このシュートオフは、予選ラウンドが終了した後に競技場の中央付近で行われる。</u>
		(3) ミックス団体戦のとき a 得点による2射(各競技者1射)のシュートオフを行う。 b 同点場合、チーム内で中心に最も近い矢で決定する。 c これも同じならば、チーム内で2番目に中心に近い矢で決定する。 d ミックス団体戦のシュートオフの制限時間は、フィールドでは80秒、3Dでは45秒とする。	ミックス団体戦の <u>シュートオフ</u> a 得点による2射(各競技者1射)のシュートオフを行う。 b 同点の場合、チーム内で中心に最も近い矢で決定する。 c これも同じならば、チーム内で2番目に中心に近い矢で決定する。 d ミックス団体戦のシュートオフの制限時間は、フィールドラウンドでは <u>40秒とし</u> 、3Dラウンドでは <u>1分</u> とする。 <u>e このシュートオフは、予選ラウンドが終了した後に競技場の中央付近で行われる。</u>
		(4) 予選ラウンドもしくは次のイリミネーションラウンドへの進出のシュートオフでは、標的は、競技場の中央近くに設置する。 a フィールドラウンドでは、シュートオフはその部門の最長距離の標的で行う。 b 3Dラウンドでは、シュートオフは審判員によって設置された標的で行う。 c 団体戦の1/4イリミネーションラウンドでは、シュートオフは最後の標的で行う。	【削除】

条	項	2020～2021年版	2022～2023年版
329 つづき	2 つづき	(5) シュートオフは、同点が発生した部門のすべてのスコアカードの記録が確認された後、ただちに実施される。当該競技者またはチームの監督にシュートオフの通告がなされた後、30分以内に現れなければその権利を失う。公式に結果が確認されておらず、シュートオフが通告されていなくても、競技者およびチームの監督が競技場を離れていた場合、その競技者は権利を失う。 準決勝戦での同点は、フィールドラウンドでは最後に行射した標的で、3Dラウンドでは特設の第5標的でシュートオフを行う。メダルファイナルでの同点は、フィールドラウンドでは指定された標的で、3Dラウンドでは個別に設置された第5標的でシュートオフを行う。	【削除】
	3		【新規追加】 <u>競技会のあるステージから次のステージへの進出するときの同点(第329条2項で規定されるものを除く)、またはファイナルラウンドでメダル決定するときの同点は、シュートオフで同点を解消する。</u> ・ <u>シュートオフは、同点が発生した部門のすべてのスコアカードの記録が確認された後、ただちに実施される。当該競技者またはチームの監督にシュートオフの通告がなされた後、30分以内に現れなければその権利を失う。公式に結果が確認されておらず、シュートオフが通告されていなくても、競技者およびチームの監督が競技場を離れていた場合、その競技者は権利を失う。</u>
		(1)	【新規追加】 <u>個人戦のシュートオフ</u> <u>a 得点による1射のシュートオフを行う。</u> <u>b 同点の場合、中心に最も近い矢により決定する。同じ距離の場合、1射のシュートオフを同点が解消するまで続ける。</u> <u>c シュートオフの制限時間は、フィールドラウンドでは40秒とし、3Dラウンドでは1分とする。</u> <u>d このシュートオフは、対戦が行われていたコースで行われる。</u>

条	項		2020～2021年版	2022～2023年版
329 つづき	3 つづき	(2)		<p>【新規追加】 団体戦のシュートオフ a 得点による3射1エンド(各競技者1射)のシュートオフを行う。 b チームの競技者は交代して行射する。 c 制限時間は、フィールドラウンド、3Dラウンドとも2分とする。 d 同点の場合、チーム内で中心に最も近い矢で決定する。これも同じならば、2番目(2番目も同じ場合、3番目)に中心に近い矢で決定する。 e シュートオフは、対戦が行われていたコースで行われる。</p>
		(3)		<p>【新規追加】 ミックス団体戦のシュートオフ a 得点による2射1エンド(各競技者1射)のシュートオフを行う。 b チームの競技者は交代して行射する。 c 同点の場合、チーム内で中心に最も近い矢で決定し、これも同じなら、2番目に中心に近い矢で決定する。 d 制限時間は、フィールドラウンドでは2分とし、3Dラウンドでは90秒とする。 e シュートオフは、対戦が行われていたコースで実施される。</p>

第4部 その他のアーチェリーラウンド

条	項	2020～2021年版	2022～2023年版
408	1		<u>25mラウンドは、60cm標的の面または60cm三つ目標的の面を使用し、60射する。</u>
	1 ↓ 2		複合ラウンドは、18mラウンドと25mラウンドを1日または2日間で、いずれかのラウンドから開始して連続して行う。

第5部 付則

条	項	2020～2021年版	2022～2023年版
503	 令和 2年10月 1日 改訂増補 令和 2年10月 1日 改訂増補 <u>令和 4年 4月 1日 改訂増補</u>

日本記録の承認および管理要領

条	項	2020～2021年版	2022～2023年版
前文		日本記録の管理は日本記録、日本ジュニア記録・日本キャデット記録、日本国際記録とする。	日本記録の管理は日本記録、日本 <u>U21</u> 記録・日本 <u>U18</u> 記録、日本国際記録とする。
1		(公社)全日本アーチェリー連盟(以下本連盟という)で公認する日本記録、日本ジュニア記録、日本キャデット記録および日本国際記録は本連盟競技規則 第121条(記録の種類)のとおりとする。	(公社)全日本アーチェリー連盟(以下本連盟という)で公認する日本記録、日本 <u>U21</u> 記録、日本 <u>U18</u> 記録および日本国際記録は本連盟競技規則 第121条(記録の種類)のとおりとする。
6	⑤ 男子または女子の団体戦において、1つのカテゴリーに同じチームから4名の競技者が参加していて、3番目と4番目の順位の競技者が予選ラウンドで同じ得点を記録した場合、10点数および/またはX点数が多い競技者を記録保持者とする。10点数および/またはX点数が同数の場合、別の性別の競技者と共に、両方のチームを共同記録保持者とする。 男子または女子の団体戦において、1つのカテゴリーに同じチームから4名の競技者が <u>予選ラウンド</u> に参加していて、3番目と4番目の順位の競技者が同じ得点を記録した場合、10点数および/またはX数が多い競技者を記録保持者とする。10点数および/またはX数が同数の場合、 <u>両名をそのチームの他の2人の競技者と共に共同記録保持者とする。</u>
10	②	日本ジュニア記録(日本国籍)	日本 <u>U21</u> 記録(日本国籍)
	③	日本キャデット記録(日本国籍)	日本 <u>U18</u> 記録(日本国籍)